

あめ 飴だま



げんさく にい み なんきち
原作：新美南吉

かんやく た なか ま み
簡約：田中麻美

てつだ ひと た ばた みつ え
手伝ってくれた人：田畑サンドーム光恵

イラスト：AC イラスト <https://www.ac-illustr.com/>

はる ひ 春のある日のことです。ふたり ちい おんな
こ つ かあ の子をつれたお母さんと、つよ さむらい
わた ぶね の 渡し舟に乗っていました。



ひ あたた その日はぽかぽかと暖かったので、
さむらい い ねむ 侍はこっくりこっくり居眠りをしはじめ
ました。それを見 みて ふたり おんな こ
す と わら 笑いました。



お^{かあ}母さんは二人^{ふたり}に、「しずかにしなさい」と言^いいました。侍^{さむらい}が怒^{おこ}ったら大^{たい}変^{へん}だからです。二人^{ふたり}はしずかになりました。

しばらくすると、一人^{ひとり}の女^{おんな}の子^こが「お母^{かあ}さん、飴^{あめ}だまちょうだい」と言^いいました。するともう一人^{ひとり}の女^{おんな}の子^こが「お母^{かあ}さん、わたしにも」と言^いいました。ところが、飴^{あめ}だまは一^{ひと}つしかありません。



「わたしにちょうだい」

「わたしにちょうだい」

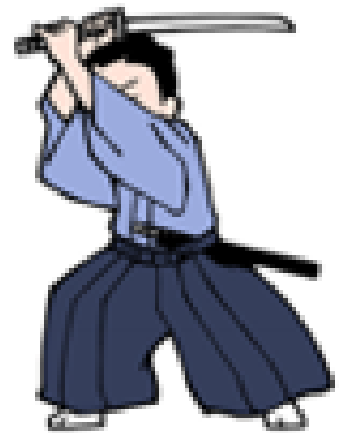
おんな こ こえ さむらい め さ
女の子たちの声で、侍が目を覚まし
ました。お母さんは さむらい おこ
おも
と思いました。

すると、 さむらい かたな も おんな こ
すると、侍は刀を持って、女の子
ちの前まで来て言いました。



あめ だ
「飴だまを出せ!」

かあ あめ だ
お母さんはおそろおそろ飴だまを出しまし
た。



すると、^{さむらい}侍^{あめ}は飴だまを^{かたな}刀でパチンと^{ふた}二
つに^わ割りました。



そして、「それ」と^い言^ふって、二人の^{ふたり}女^{おんな}の
子^こに^わ分^わけてあげました。それからさっきま
でいたところ^{もと}に戻^{もど}って、また、こっ
っ^{ねむ}くり眠^{ねむ}りはじめました。

